

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2015 年 7-9 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲28 となり、前期より 1 ポイント落ち込み、足踏み状態になっているが、来期への期待感は強い。

2015 年 7-9 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 32%で前回調査（2015 年 4-6 月期 31%）より 1 ポイント増加、「好転」とした企業は 4%で前回調査（4%）と同水準。景況判断 DI は▲28 となり、前回調査（▲27）より 1 ポイント悪化した。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲15 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント改善
 - ・処理量 DI は▲16 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は▲6 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント改善
 - ・営業利益 DI は▲20 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント悪化
 - ・資金繰り DI は▲5 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント悪化
 - ・借入難易度 DI は 5 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント悪化
 - ・設備投資 DI は▲2 で、2015 年 4-6 月期から 4 ポイント改善
 - ・従業員数 DI は 1 で、2015 年 4-6 月期から 1 ポイント悪化
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲21 となり、7 ポイント改善する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 1.4%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 4.9%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 4.92%（前回調査 5.10%）となった。回答割合は「5%未満」38.7%、「5-10%未満」16.0%、「10%以上」12.9%となった。
- 経営上の問題点としては、「需要の停滞」23.6%（前回 22.3%）、「同業者相互の価格競争の激化」18.8%（前回 19.5%）と引き続き上位となった。「従業員の不足」11.0%（前回 8.8%）が上昇傾向にあり、急激な需要の増加による人手不足といった意見もみられる。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

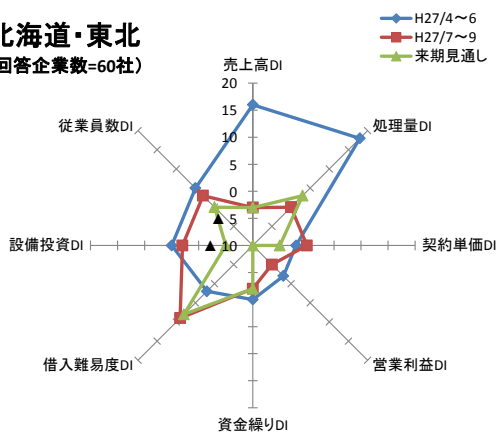
※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

〔調査の要領〕

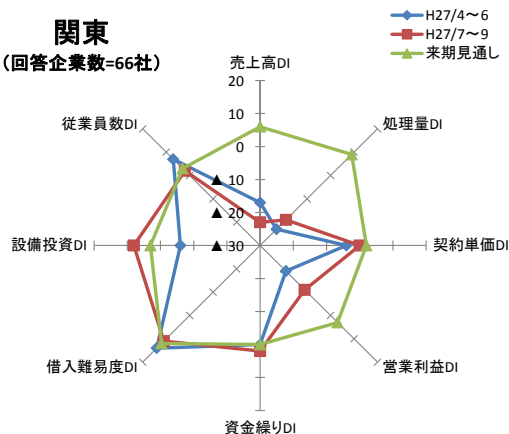
- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 27 年 10 月 9 日～11 月 13 日
- 回答企業数：391 社

【地域別レーダーチャート】

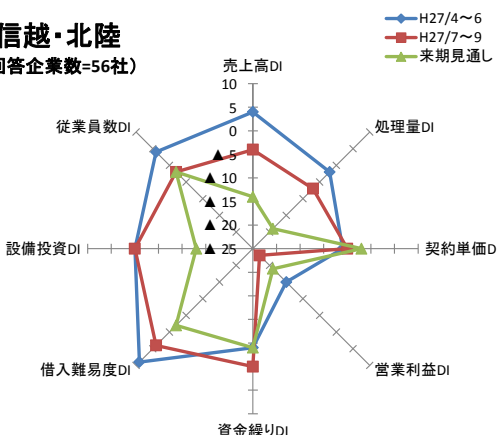
北海道・東北 (回答企業数=60社)



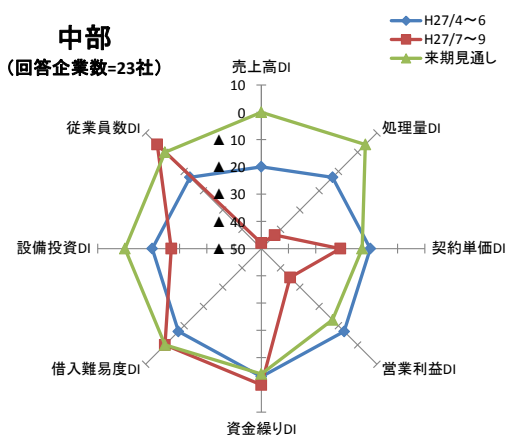
関東 (回答企業数=66社)



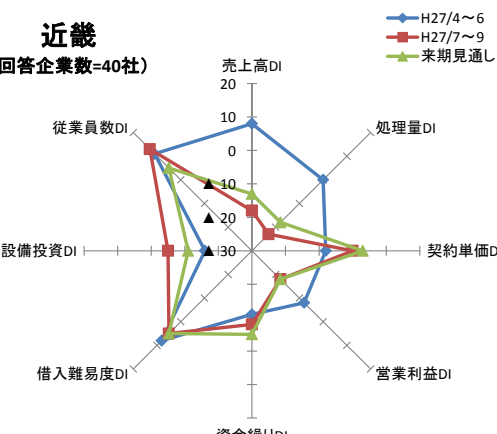
信越・北陸 (回答企業数=56社)



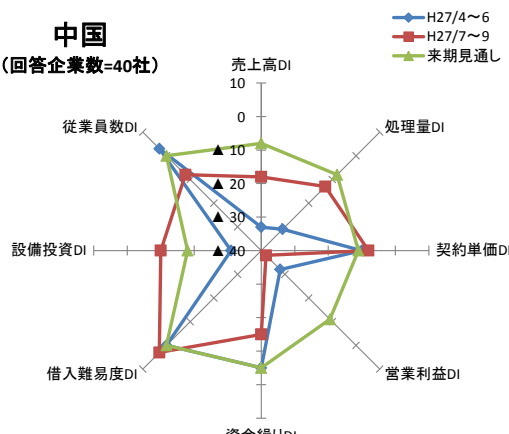
中部 (回答企業数=23社)



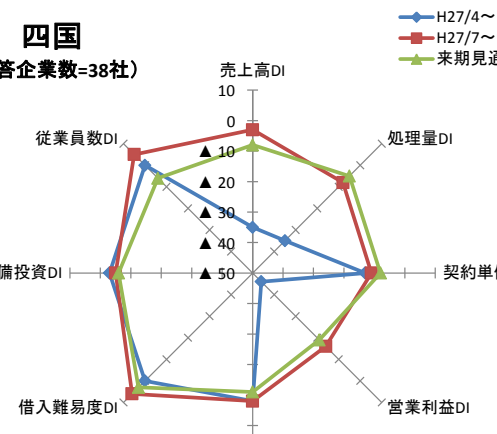
近畿 (回答企業数=40社)



中国 (回答企業数=40社)



四国 (回答企業数=38社)



九州・沖縄 (回答企業数=67社)

